

点検・評価シート（1）

大和市学校教育基本計画

◆ 評価の基準について ◆

○基本目標の「総合評価」

A評価	基本目標の実現に向けて、期待を上回る結果が表れている。
B評価	基本目標の実現に向けて、期待された結果が表れている。
C評価	基本目標が実現に向けて、期待された結果が表れていない。

○施策の方向の「達成度」

A評価	施策の進捗状況が、24年度に期待された結果を上回っている。
B評価	施策の進捗状況が、24年度に期待された通りの結果になっている。
C評価	施策の進捗状況が、24年度に期待された結果を下回っている。

基本目標1 夢や目標に向かってたくましく生きる子どもを育てます

子どもたちが、これからの社会の中で、心豊かにたくましく生きる人間に育っていくことができるよう、一人一人を大切に教育を進めます。

それとともに、生きてはたらく知恵を身につけ、他者と相互理解する中で、さまざまな問題に対応していく力を育成するため、“確かな学力”を身につける取り組みを推進します。

■実施計画掲載事業と平成24年度の実績

▼施策の方向1—1 個々のよさや可能性を伸ばす教育を進めます

自分の力を発揮し、他者に認められた経験によって、自己肯定感が高まり、夢や目標に向かうことができます。また、他者の個性を尊重し合い、互いを認め合うことにより、集団の一員である意識もはぐくまれます。一人一人を大切にしたい取り組みに努めます。


不登校で苦しむ児童・生徒に対しては、登校支援を始めとする早期対応を、いじめに苦しむ児童・生徒に対しては、心のケアなどを関係機関と連携する中で推進するとともに、学校全体でその未然防止に取り組みます。

障がいがある児童・生徒に対しては、個別の支援計画の作成や特別支援教育ヘルパーを配置することで、ハード、ソフト両面でのバリアフリーを図ります。児童・生徒が、障がいの有無や立場の違いを超えて共に理解し合い、学び合える環境を目指します。

(1)学用品等就学援助		[担当] 学校教育課		
[事業内容]	学校教育法の規定に基づき、経済的理由により就学が困難な家庭の負担を軽減するため、給食費や学用品費を援助しました。 ※給付者数は、経済状況によって大きく増減します。経済状況を注視し、効率的な援助に努めます。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	受給者数 (小学校)	計画:3,362人 実績:3,238人	計画:3,367人 実績:-	計画:3,395人 実績:-
	受給者数 (中学校)	計画:1,714人 実績:1,709人	計画:1,689人 実績:-	計画:1,631人 実績:-

(2)不登校・いじめ対策		[担当] 指導室		
[事業内容]	教職員や保護者への啓発のため、新1年生向けリーフレットを配布したほか、いじめ防止をテーマとしてフォーラムを開催しました。 また、いじめを児童・生徒が自らの問題として考えるための市内一斉授業や、全小・中学校でのいじめに関する無記名アンケートを実施しました。 教職員に対しては、共通認識を持って児童・生徒を理解し問題解決を図るため、学校に出向き校内研修等で指導・助言をしました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	リーフレットの配布 (新1年生分)	計画:2,000枚 実績:1,900枚	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-
	フォーラムの開催	計画:1回 実績:1回	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-
	児童・生徒指導研修会 (訪問)	計画:小10回 実績:小中12回	計画:小9回 実績:-	計画:中9回 実績:-

(3)外国人児童・生徒教育支援		[担当] 指導室		
[事業内容]	外国人児童・生徒の学校生活や学習の支援のため、小・中学校に日本語指導員(6名)や外国人児童・生徒教育相談員(18名)を派遣しました。また、就学前児童が学校生活にスムーズに入れるよう、相談員等を派遣しました。 このほか、(公財)大和市国際化協会の協力により、ボランティアの指導員を派遣しました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	日本語指導員派遣回数	計画:418回 実績:406回	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-
	外国人児童・生徒教育相談員派遣回数	計画:473回 実績:306回	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-
	就学前指導(プレスクール)	計画:50回 実績:50回	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-

(4)不登校対策		[担当] 青少年相談室		
[事業内容]	<p>学校復帰を目的として教育支援教室(まほろば教室)を開設し、学科学習(1日3時間)のほかカウンセリングや集団活動などを行いました。また、各学校での不登校に対する取り組みが活性化されるよう、「長期欠席児童・生徒報告書」の様式及び運用手法を見直したほか、「進級・進学時連携支援シート」を全校に導入するなど未然防止・早期対応に取り組みました。さらに、専門的な支援が必要なケースにより多く対応できるようスクールソーシャルワーカーを2名体制にし、支援体制を強化しました。</p>			
				
		「まほろば教室」通室生の手芸作品		
[計画と実績]		H24	H25	H26
	まほろば教室通室人数(年度未登録者数)	計画: 30人 実績: 34人	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-
	『進級・進学時連携支援シート』の導入・活用	計画:導入 実績:全28校	計画:活用 実績:-	計画:同左 実績:-

(5)不登校対策支援員配置		[担当] 青少年相談室		
[事業内容]	各学校での不登校に対する取り組みが活性化されるよう、不登校対策支援教室を中学校2校に配置し、不登校児童・生徒支援員(不登校対策支援員)4名を配置しました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	不登校対策支援員配置校数	計画:2校 実績:2校	計画:3校 実績:-	計画:4校 実績:-

(6)電子黒板整備(特別支援教室)		[担当] 指導室		
[事業内容]	特別支援学級在籍児童・生徒の学習や指導を行うにあたり、視覚支援として効果的な電子黒板を、全小・中学校の特別支援教室に設置しました。また、それに伴い全小・中学校を訪問し、その活用について研修を行いました。 ※通常の学級(普通教室)については、平成22年度に小学校全校に整備済み。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	電子黒板の設置	計画:28校 実績:28校	計画:活用 実績:-	計画:同左 実績:-

(7)特別支援教育ヘルパー配置		[担当] 指導室		
[事業内容]	障がいがある児童・生徒を一人一人の教育的ニーズに応じてきめ細かく支援するため、特別支援教育ヘルパーを前年度より5名増員し65名配置しました。配置人数については、支援を必要とする指数を算出し、その充足率100%を目指し、段階的に必要な人員を配置します。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	ヘルパー配置人数	計画:65人 実績:65人	計画:70人 実績:-	計画:同左 実績:-

(8)学校教育相談員配置		[担当] 青少年相談室		
[事業内容]	児童・生徒が不安や悩みを気軽に話し、心のゆとりを持てる環境をつくるため、小学校に「子どもと親の相談員」を、中学校に「心の教室相談員」を配置し、児童・生徒、保護者、教職員からの相談を受けました。また、平成24年度から特別相談員(臨床心理士)を定期的に学校に派遣し、教育相談体制の充実を図りました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	相談員の配置日数 (小学校)	計画:週1日 実績:週1日	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-
	相談員の配置日数 (中学校)	計画:週2日 実績:週2日	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-
	学校教育相談員対象 研修	計画:3回 実績:3回	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・教育委員会が作成した就学援助のお知らせを全校児童・生徒に配布し、制度の周知に努めています。
- ・一人一人を大切にすきめ細かな指導や日常の教育相談活動に努め、学校教育相談員や不登校児童・生徒支援員を活用して不登校の早期発見やいじめ問題の未然防止に向けて取り組んでいます。
- ・いじめの未然防止策として、休み時間等も教室や廊下での観察や、生活アンケート（2～4回／年）をもとにした教育相談などを実施（1～4回／年）しました。
- ・児童・生徒指導担当や教育相談コーディネーターが中心となり、問題行動に関する会議や支援を必要とする生徒に関する会議を定期的に持ち、情報を共有するとともに日頃の指導に生かしています。
- ・外国人児童・生徒一人一人のニーズに合わせ、日本語指導員による学習支援を要請したり、保護者面談などの際に外国人児童・生徒教育相談員を要請したりして、日本語を理解できない保護者に対して学校生活の様子を伝えるなどの支援をしています。
- ・特別支援学級在籍児童・生徒が、言葉や板書では理解困難な場合、電子黒板を活用して拡大表示したり、イラスト・映像を用いたりして支援しています。
- ・学習への困り感を持った児童・生徒に対して、スクールアシスタントが取り出し授業やチームティーチングを行ったり、特別支援学級の児童生徒に対してヘルパーが生活全般の補助を行ったりして支援にあたっています。

▼施策の方向1—2 “確かな学力”を身につける教育を進めます

学習内容に即した教材の導入を図るとともに、学習環境の整備を進めます。また、「わかる喜び、学ぶ楽しさ」を体感できる学習を通し、学習意欲の向上と学習習慣の定着をめざします。

また、情報モラル教育や環境教育など、変化する現代社会において不可欠な「時代に即した教育」を、様々な教科等を通して進めます。

併せて、学習時間の弾力化や学級を超えた学習集団の弾力的編制など、実情に応じた効果的学習を進めていきます。また、授業の構成や進め方を工夫することに加え、体験活動、問題解決型学習などの充実により、“生きる力”をはぐくむ豊かな学びを進めます。

(1)少人数指導等非常勤講師配置		[担当] 学校教育課		
[事業内容]	きめ細やかな指導により、順調な学校生活がスタートできるように非常勤講師を配置し支援を行いました。小学校については、1学級の児童数が35人以上の第3学年に、中学校については、1学級の生徒数が35人以上の第1学年を対象として、小学校5校、中学校5校に1名ずつ非常勤講師を配置しました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	講師配置校数 (小・中学校合計)	計画:10校 実績:10校	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-

(2)小・中学校教材等整備		[担当] 指導室		
[事業内容]	小・中学校の教育活動に必要な教材(跳び箱やサッカーゴール、楽器、ミシン等)を学校の要望に基づき計画的に整備しました。また、適正な教材選定等を検討するため、教材教具研究協議会を開催しました。 教材教具研究協議会において取り決めた“児童・生徒数に応じた必要な備品数”などを基準とし、学校要望に応じた教材備品を配布します。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	(学校からの要望に基づく)教材の配布	計画:配布 実績:配布	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-

(3)指導図書等整備		[担当] 指導室		
[事業内容]	教科指導を効果的に行う環境を整えるため、教員に教科書、準教科書(道徳、体育、進路※中学校のみ)、指導書(道徳、体育)及び指導用教材を配布しました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	指導用配布教科書の 種目数(小学校)	計画:11種目 実績:11種目	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-
	指導用配布教科書の 種目数(中学校)	計画:15種目 実績:15種目	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-

(4) 読書活動の推進**[担当] 指導室**

[事業内容] 子どもたちの自主的な読書活動を推進するため、平成 24 年度から新たに大和市子ども読書フォーラムを開催したほか、大和市子ども読書感想文コンクールを実施し、優秀作品を文集「こすもす」に掲載しました。

また、「やまと 学校読書力アップチャレンジプロジェクト」を立ち上げ、朝読書などの読書活動を各小・中学校で進め、本に親しむ時間を確保したり、教科等の年間カリキュラムの中に図書館利用の時間を明示したりするなど、学校における読書活動の推進を図りました。



大和市子ども読書フォーラム

[計画と実績]

	H24	H25	H26
フォーラムの開催回数	計画:1回 実績:1回	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-
大和市子ども読書感想文コンクールの実施	計画:実施 実績:実施	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-


(5) 英語教育の推進**[担当] 指導室**

[事業内容] 児童・生徒がコミュニケーションを図ろうとする態度やコミュニケーション能力を育成するために、中学校に英語指導助手 3 名、小学校に外国語活動指導助手 7 名を派遣しました。また、教職員・英語指導助手・外国語活動指導助手対象の研修会で指導方法などを周知したほか、教科担当・担任との打ち合わせの時間を確保し、授業内容を充実させました。

[計画と実績]

	H24	H25	H26
英語指導助手の派遣時数	計画:8~12時間/学級 実績:9時間/学級	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-
外国語活動指導助手の派遣時数(5・6年生)	計画:35時間/学級 実績:34.5時間/学級	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-
外国語活動指導助手の派遣時数(1~4年生)	計画:2~5時間/学級 実績:2.4時間/学級	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-

(6)情報教育の推進		[担当] 教育研究所		
[事業内容]	ICT機器を活用する授業の実践に関する研修講座と調査研究を実施しました。 情報教育推進校において、学校単位で2年間の実践研究を行い、教育成果を発表会、紀要として公開しました。 情報教育計画策定のための情報教育プロジェクト委員会を3回(前年度4回)開催しました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	情報モラルに関する調査研究	計画:調査研究 実績:9回	計画:研究成果の普及・実践 実績:-	計画:同左 実績:-
	情報教育に関する調査研究		計画:調査研究 実績:-	計画:同左 実績:-
	情報セキュリティに関する研修回数(講座)	計画:5回 実績:3回	計画:3回 実績:-	計画:同左 実績:-
	情報セキュリティに関する研修回数(訪問)	計画:小19回 実績:小19回	計画:中9回 実績:-	計画:小10回 実績:-

(7)理科教育・環境教育の推進		[担当] 教育研究所		
[事業内容]	<p>教職員や市民を対象とした、理科教育・環境教育に関する、実験・体験を中心とした研修事業を3回開催しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「小学校理科観察・実験研修」 ・「放射能の基礎知識」 ・「外部機関と連携した理科教育 ～ JAXA 宇宙教育センター・相模原市立博物館～」 <p>児童・生徒を対象にした子ども科学教室等を開催しました。(カッコ内は前年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども科学教室:開催回数7回(7回) 参加人数 211人(246人) ・やまとおもしろ科学館:開催回数2回(2回) 参加者数 1,634人(1,504人) 			
				
		やまとおもしろ科学館		
[計画と実績]		H24	H25	H26
	小学校理科副読本改訂版の発刊	計画:5,000冊 (新3・4年生) 実績:5,200冊	計画:2,300冊 (新3年生) 実績:-	計画:2,300冊 (新3年生) 実績:-
	小学校理科副読本指導資料集発刊		計画:2,000冊 実績:-	

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・研修などを通じて、職責に応じた情報セキュリティに関する知識を学ぶなどして学校全体のセキュリティに生かしています。
- ・「大和市立小・中学校における教育ネットワーク利用要領」に則り機器の運用を行っています。
- ・子どもたち同士の学び合いや多様な体験を通じた課題探究型の授業、指導と評価が一体となった授業を目指しています。
- ・意欲・関心・態度や思考力・判断力・表現力の育成を図るために、積極的に研究授業を実施するとともに、校内研究を充実させ指導力の向上を目指しています。
- ・児童・生徒の読書量を増やし読書習慣を身につけることで、語彙の幅を広げ、読解力を向上できるように、読み聞かせのほか目標設定した読書活動に取り組んでいます。
- ・授業内容の工夫や外国語活動指導助手による授業を展開することで、外国語教育におけるコミュニケーション能力の育成を図っています。
- ・授業における児童・生徒の目指す姿を達成するために、電子黒板やICT機器などを用いたプレゼンテーションやデジタルカメラの画像などを有効利用して授業改善に努めています。

▼施策の方向1—3 体験活動を充実します

異年齢の人との交流、スポーツ活動、自然体験活動、集団宿泊体験、ボランティア活動など、社会活動や体験活動の充実を図ります。その結果、児童・生徒の自己有用感をはぐくみ、人間関係を築く力やコミュニケーション能力を育成します。

また、生き方を考える教育を通して、児童・生徒の自己実現を促します。特に中学校を中心とした職場体験活動の充実を図ります。

(1)中学校部活動支援		[担当] 指導室		
[事業内容]	学校教育の一環として、有意義な部活動の充実のため、専門性を持った教員が学校にいないなど、派遣の必要性が学校で生じた場合に地域の方に指導者として協力していただき、支援を行いました。また、中学校体育連盟主催全国大会等の出場校には派遣費を支給し、その活動を支援しました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	外部指導者の派遣人数	計画:30人 実績:30人	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-

(2)体験活動の推進		[担当] 指導室		
[事業内容]	集団活動の楽しさや自然体験などを経験させるとともに、健康増進につながる宿泊体験学習などの体験活動が行われるよう、小学校では第5学年時に、中学校では第2学年時に行うキャンプ活動に対し、費用の一部を助成しました。 また、絵画などの美術作品を鑑賞し、お互いに意見を発言することで、観察力や思考力、コミュニケーション能力を養う取り組みとして、対話型美術鑑賞教育を実施しました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	健康増進事業補助金 交付校数	計画:28校 実績:28校	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-

(3)職場体験学習の推進		[担当] 指導室		
[事業内容]	中学校で職場体験学習が推進されるよう、職場体験の受け入れに協力する市機関の一覧表を作成し、各校へ配布しました。このほか、学校のキャリア教育担当者へ職場体験推進に向けた情報を提供しました。 ※職場体験受入れ機関:コミュニティセンター、学校給食共同調理場、市立保育園、市立図書館、グリーンアップセンター、消防署 など			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	職場体験協力機関一 覧表の作成・配布	計画:作成・配布 実績:作成・配布	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- 地域の教育資源を利用し実体験による教育を展開しています。具体的には、福祉施設や老人ホームへの訪問による福祉体験、店舗や事務所で実際に働く職場体験、ゲストティーチャーを招いての出前授業などの取り組みを行っています。
- キャンプや修学旅行などを通して、自然に触れることや文化的な建造物に接することで見識を深めたり、友達の大切さを認識させたりしています。

▼施策の方向1—4 教育活動全体で道徳教育・人権教育の推進を図ります

豊かな情操や自他の生命尊重の精神、規範意識、公共の精神などをはぐくむために、道徳の時間を要として学校教育活動全体で、子どもの発達に応じ、実践力を伴う道徳教育の充実を図ります。

児童・生徒自身が一人の人間として大切にされているという実感をもつことで、自己や他者を尊重しようとし、主体的に行動できる人権感覚を備えた児童・生徒の育成をめざします。

(1)道徳教育の推進		[担当] 指導室		
[事業内容]	各学校で道徳教育の推進の中心となる道徳推進教諭を対象に、道徳教育のあり方や具体的指導方法について、指導主事が授業者となり授業実践を行うと同時に、校内研究のあり方についての研修会を開催することで、教員の授業力向上や道徳教育に対する意識向上を図りました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	教育課題(道徳)研究推進校への支援	計画:支援 実績:支援	計画:同左 実績:-	計画:各学校への普及・実践 実績:-
	研修会の開催回数	計画:1回 実績:1回	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-

(2)人権教育の推進		[担当] 指導室		
[事業内容]	人権教育の目標である「一人一人の児童・生徒がその発達段階に応じ、人権の意義・内容や重要性について理解し、自分の大切さとともに他人の大切さを認めること」が達成されるように、教職員向けに人権教育に係る研修会を開催したほか、児童・生徒向けの講演会に対し、講師を紹介するなどの支援を行いました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	研修会の開催回数	計画:4回 実績:4回	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-
	児童・生徒対象講演会への支援件数	計画:7件 実績:4件	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-


本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・道徳教育を校内研究のテーマに据え、教職員研修を充実させることで、児童・生徒が道徳的な価値を意識して日頃の学校生活を送るよう指導しています。
- ・人権的視点から一人一人の違いを理解させるとともに、自分や他人の大切さを認識させ、いじめ防止の指導を行っています。
- ・被災地の方々と写真や手紙を交換したり、お互いに行き来して、被災地での体験談を聞いたり、ホームステイをしたりして交流を深めています。

▼施策の方向1—5 豊かな感性や情緒をはぐくむ読書活動などの充実を図ります

感性や情緒を豊かなものにし、創造力をはぐくむ読書活動や文化活動は、子どもの健やかな成長にとって大変重要なものです。また、伝統文化などにふれる活動を通して、国際社会で生きていく上で欠かせない異文化尊重などの国際感覚をはぐくみます。

(1)読書活動の推進 (再掲)		[担当] 指導室		
[事業内容]	<p>子どもたちの自主的な読書活動を推進するため、平成24年度より新たに子ども読書フォーラムを開催したほか、大和市子ども読書感想文コンクールを実施し、優秀作品を文集「こすもす」に掲載しました。</p> <p>また、「やまと 学校読書力アップチャレンジプロジェクト」を立ち上げ、朝読書などの読書活動を各小・中学校で進め、本に親しむ時間を確保したり、教科等の年間カリキュラムの中に図書館利用の時間を明示したりするなど、学校における読書活動の推進を図りました。</p>			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	フォーラムの開催回数	計画:1回 実績:1回	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-
	(仮称)大和市子ども読書感想文コンクールの実施	計画:実施 実績:実施	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-

(2)学校図書館教育の推進		[担当] 指導室		
[事業内容]	<p>学校図書館に司書を配置し、本の魅力の発信や調べ学習に関する本の収集、図書館の整備などを行うことで、児童・生徒が読書活動に親しみ、授業でも有効活用できるように支援を行いました。</p> <p>また、学校の司書教諭や学校図書館司書を対象とした研修会を開催するとともに、司書連絡会を開催し、司書の活用を推進しました。</p>			
				
		<p>本の紹介展示を工夫した図書室</p>		
[計画と実績]		H24	H25	H26
	司書教諭等・学校図書館司書対象研修会の開催回数	計画:2回 実績:2回	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-
	学校図書館司書連絡会の開催回数	計画:3回 実績:3回	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-

(3) 中学校図書館施設整備		[担当] 指導室		
[事業内容]	生徒の感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かにする子どもたちの自主的な読書活動を推進するため、生徒がより利用したくなる魅力のある図書室にリニューアルします。 今年度は計画的な整備のため、今後の整備内容について検討しました。 ※渋谷中、光丘中については、整備済み			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	中学校における整備内容の検討	計画: 検討 実績: 検討		
	学校図書館施設の改修		計画: 大和中学校 他 3 校 実績:	計画: つきみ野中学校 他 2 校 実績:

(4) 芸術鑑賞等学校行事支援		[担当] 指導室		
[事業内容]	児童・生徒が優れた伝統文化や芸術に接する機会を保障することを目的とした文化的行事の推進のため、各小・中学校で毎年1回程度開催する、演劇や音楽等の鑑賞会に対し、費用の一部を助成しました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	文化的行事への助成校数	計画: 28 校 実績: 27 校	計画: 同左 実績: -	計画: 同左 実績: -

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・学校と地域の方や保護者などが連携し、読み聞かせや学校図書館の整備などを行い、読書活動を推進しています。このことにより、児童・生徒に豊かな感性や情操、知性をはぐくんでいます。
- ・芸術鑑賞や美術鑑賞など本物を見る・聴く・触れる体験を取り入れ、感性豊かな児童・生徒の育成を心がけています。

▼施策の方向1—6 健康・安全教育を充実します

子どもが自らの健康をはぐくみ、災害時などにも安全を確保することができるように、基礎的な素養を育成する健康・安全教育を充実させるとともに、喫煙・飲酒・薬物乱用防止、交通安全などに関する教育を推進します。また、望ましい生活習慣や食習慣を身につけさせるため、栄養教諭を中核として食育の推進を図り、学校・家庭・地域が連携して取り組むことをめざします。

(1)健康・安全教育の推進		[担当] 指導室		
[事業内容]	児童・生徒が災害時等にも自らの安全を確保することができるよう、基礎的な知識と実践力を育成する健康・安全教育を推進するため、健康・安全教育担当者のほか、防災教育研究会を開催しました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	健康・安全教育担当者の開催回数	計画:1回 実績:1回	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-
	防災教育研究会の開催回数	計画:8~10回 実績:11回	計画:授業等において実践 実績:-	計画:同左 実績:-

(2)学校給食における食育の推進		[担当] 保健給食課		
[事業内容]	健全で豊かな人間性を育むための食育の一環として、週4回の米飯給食に合う和食の献立を充実し、日本の食文化や食習慣を学ぶ機会が増えました。 学校給食における食育推進に関する研究や、調理従事者の研修会等を実施したほか、食育推進を目的とした学校給食講習会や学校給食展を開催しました。また、PEN樹脂製食器の買い換えなどを計画的に行います。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	食育研究及び食育に関する研修の実施	計画:実施 実績:5回	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-
	PEN樹脂製食器の買い換え			計画:9校分 実績:-

(3)学校事故防止の推進		[担当] 保健給食課		
[事業内容]	学校内における事故防止を推進するため、プール事故など水の事故の防止、ノロウイルス予防に関するパンフレット等を教職員へ配布し、注意喚起しました。 また、市内小・中学校で発生した学校事故を事例とした資料を作成して学校へ配布し、再発防止を呼びかけました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	学校事故防止パンフレット等の配布回数	計画:3回 実績:3回	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・食育指導年間計画を作成し、家庭科や社会科、総合的な学習の時間等に食育の視点の授業を行っています。
- ・発達段階に応じ、「交通安全教室」「防犯教室」「自転車の乗り方教室」「薬物乱用防止教室」などを実施し、児童の安全や防犯意識の向上に努めています。
- ・通学路の安全点検を行い、登下校の安全に役立てています。
- ・外部からの講師を招き「喫煙防止教育」「性教育」また、「携帯電話教室」などを実施し、健康や安全の推進、携帯電話のトラブル防止に努めています。
- ・防災教育を実施することで、防災に関する知識をつけるとともに、自分で自分の身が守れるように指導しています。

施策の方向1—1 個々のよさや可能性を伸ばす教育を進めます

[施策の達成度] B

[施策の成果]

- ・スクールアシスタントや日本語指導員による学習支援、スクールカウンセラーや教育相談員による相談活動の支援、また、ヘルパーによる障がいを持つ児童・生徒への生活支援など、一人一人の教育的ニーズに目を向け対応することで、児童・生徒が困り感を縮小し学校生活を送ることができています。
- ・いじめ防止を目的とした市内全校一斉の学級指導や無記名アンケート、教職員対象の研修を行うことにより、いじめ防止に対する意識の向上が見られました。これにより、いじめの認知数に増加傾向が見られ、事案の早期発見・早期解決につながっています。
- ・特別支援学級在籍児童生徒にとって、電子黒板は視覚支援の面からも効果があり、学習や生活の中で有効に活用されています。
- ・経済的に困窮している家庭に対し、就学援助制度を適用することにより、学校における学習環境の平等性を維持しています。
- ・不登校児童・生徒支援員を市内中学校2校（4名）に配置し、不登校の早期発見・早期対応を図ることができました。

[今後の課題]

- ・学校生活の中には、学習面だけでなく、人間関係のトラブルや問題行動など様々な課題があり、その解決に向け、教職員の対応力や指導力の向上、また、人材の確保が必要です。特に、小学校では、児童指導に始めから校長が関わるケースも多く見られます。そのため、学校全体で組織的な対応を行うことができるよう環境整備を進める必要があります。また、支援チームの長となる中核的な教員が必要となっています。
- ・経済的理由による給食費の滞納、修学旅行の不参加等を生じさせないために支援制度を確実に周知するよう努める必要があります。
- ・不登校児童・生徒支援員の配置が一定の効果を上げていることから、不登校生徒の割合が高い傾向となっている中学校に同支援員を拡充していく必要があります。

[特記事項]

- ・就学援助については生活保護基準の改定を注視していく必要があります。
- ・青少年相談室の相談体制を強化するため、小学校へは青少年相談室から相談員を派遣し、中学校へは全校に不登校生徒支援員を配置します。

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
不登校児童・生徒の割合	%	小) 0.40	0.43			0.33	0.25
		中) 3.34	3.01			2.80	2.22
いじめ問題解消の状況(解消率)	%	小) 97.9	94.3			100.0	100.0
		中) 95.1	100.0			100.0	100.0

施策の方向1—2 “確かな学力”を身につける教育を進めます	[施策の達成度] B
--------------------------------------	-------------------

[施策の成果]

- ・成果指標として設定した「学校の勉強がわかると答えた児童・生徒の割合」は計画策定時より小学校で4.8ポイント、中学校で3.3ポイント増加しており、「確かな学力」の定着に一定の成果が見られています。
- ・授業公開や校内研修を積極的に取り入れ、授業形態の工夫や指導法の改善を行い、一人一人の児童・生徒に対して目指す姿の達成に努めました。その結果、言語活動を活発に取り入れる授業が増加し、思考・判断・表現の育成につながっています。
- ・言語活動を意識した授業展開を心がけることや、電子黒板や書画カメラ、ICT 機器などを効果的に取り入れることで、思考力・判断力・表現力などの育成に努め、徐々に考える力や発表する力がついてきています。
- ・外国語教育では、学習指導要領の趣旨に則り、英語指導助手や外国語活動指導助手と（教科）担任により、コミュニケーションの育成を意識した授業を行うことで、児童生徒の表現力の向上につながっています。
- ・少人数指導等非常勤講師の派遣により、きめ細やかな指導の実践ができ、学校環境に馴染めない児童・生徒の出現防止につながっています。
- ・情報教育に関する研修を開催したり、実践研究の内容を発表会などを通じて公開したりすることで ICT 機器を活用した授業改善のほか、情報モラルについて理解を深めることができ、児童・生徒指導に生かすことができています。
- ・学習意欲向上を目指し、地域に根ざした理科副読本を作成して、小学校3,4年生に配布しました。

[今後の課題]

- ・評価の観点を充分理解し、児童・生徒の目指す姿をどのように見取るかを明確にした授業づくりが求められます。
- ・学校図書館を活用した授業の展開をさらに研究していくことが必要です。
- ・35 人学級実施学年の拡大に伴い、市費負担による少人数指導等非常勤講師の派遣の必要性を検討する必要があります。
- ・児童・生徒へ向けた情報モラル教育の充実が求められています。
- ・理科副読本を活用した授業実践事例を蓄積していくことが必要です。

[特記事項]

- ・平成 25 年度は、家読の推進や不読対策をテーマに子ども読書フォーラムを開催する予定です。

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
学校の勉強がわかると答えた児童・生徒の割合	%	小) 83.7	88.5			90.0	95.0
		中) 75.6	78.9			81.0	85.0

施策の方向1—3 体験活動を充実します				[施策の達成度] B			
<p>[施策の成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果指標として設定した「将来の夢や希望を持っていると答えた児童・生徒の割合」は計画策定時より小学校で0.9ポイント減となりましたが、中学校では4.2ポイント増となり中間目標である71%を超える結果となりました。 ・自然体験・文化的な体験・職場体験など、様々な場面で体験や経験をすることで、児童・生徒の感性は高まり、言語だけでは理解が困難なことでも実感として理解していく姿が見られます。 ・中学校の部活動では、地域指導者による専門的な指導を受けることができ、精神的にも技術的にも成長しています。 ・対話型美術鑑賞教育では、児童が美術作品を多角的に鑑賞することで、自らの意見を発言し周囲の意見を聞こうとする姿勢が見られます。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動全般において、これまで以上に児童・生徒が本物を見る・聴く・触れる体験を取り入れ、感性豊かな児童・生徒の育成を心がけていくことが求められます。 							
成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
将来の夢や目標をもっている と答えた児童・生徒の割合	%	小) 88.2	87.3			89.0	89.0
		中) 69.8	74.0			71.0	72.0

施策の方向1—4 教育活動全体で道徳教育・人権教育の推進を図ります				[施策の達成度] B			
<p>[施策の成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果指標として設定した「自分からあいさつをすると答えた児童・生徒の割合」は計画策定時より小学校で1.4ポイント減少しましたが、中学校では0.6ポイントの増加となっています。 ・日頃の教育活動の中に道徳的な価値や人権の大切さを意識して取り入れることで、相手を気遣ったり、思いやりたりする気持ちの育成につながっています。 ・「いじめ問題」は道徳や犯罪としての捉え方だけではなく、さらに人権教育の側面からも指導する場面が多くなっています。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育の中で人権教育の重要性を理解し、全体計画や年間計画を明確にしていく必要があります。 							
成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
自分からあいさつを すると答えた児童・ 生徒の割合	%	小) 88.9	87.5			92.0	95.0
		中) 84.1	84.7			90.0	95.0

施策の方向1—5 豊かな感性や情緒をはぐくむ読書活動などの充実を図ります				[施策の達成度] B			
[施策の成果] <ul style="list-style-type: none"> 学校図書館の整備・司書の配置などにより、児童・生徒の読書活動が活発になり、豊かな情操の育成や学力向上につながっています。また、「やま 学校読書力アップチャレンジプロジェクト」を立ち上げ、朝読書などの読書活動を各小・中学校で進め、本に親しむ時間を確保したり、教科等の年間カリキュラムの中に図書館利用の時間を明示したりすることを推進しました 本の魅力の発信や学校独自の取り組みにより学校図書館が児童・生徒にとっての居場所となり、様々な本に触れる機会が増加しました。 読書活動がより活発になるように、ほとんどの小中学校で、朝の読書時間を確保しています。また、昼休みを利用して高学年の児童が低学年の児童に読み聞かせを実施している学校も見られます。 							
[今後の課題] <ul style="list-style-type: none"> 学校図書館が読書活動の場としてだけでなく、情報センターとしての役割が果たせるように、多くの教科の学習計画の中に、学校図書館の利用を積極的に組み入れていくことが求められます。 成果指標として設定した「1ヶ月間の平均読書冊数」は小・中学校ともに計画策定時を下回る結果となっていることから、これまでの取り組みをさらに強化する必要があります。 							
成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
1ヶ月間の平均読書冊数	冊	小) 12	11.3			13	14
		中) 5	3.7			5.5	6

施策の方向1—6 健康・安全教育を充実します				[施策の達成度] B			
[施策の成果] <ul style="list-style-type: none"> 学校事故等の発生防止のための啓発チラシを各学校に3回配布するなど啓発に努め、成果指標として設定している「学校事故発生率」が小学校で3.4%、中学校で10%まで減少しました。 教育課程研究協議会で防災教育を扱い「自ら判断し自分の身を守ることができる子を育てる防災教育のあり方」について研究し、研究授業を通して小・中学校に発信するとともに、成果物を配布しました。 安全教育の一環として、「交通事故防止」に関する研修会を開催し、特に自転車と車の事故防止について学校での安全指導を徹底するよう働きかけ、多くの小学校で、自転車安全教室を実施しています。 栄養教諭を中核とした食育ネットワークを構築し、食育の推進を図りました。 							
[今後の課題] <ul style="list-style-type: none"> 現在作成されている各学校の危機管理マニュアルをより具体性のある内容に修正していく必要があります。 学校事故発生率は小学校では目標値の4%を達成しましたが、中学校は23年度と同じ10%であることから、事故防止に向けた情報提供を引き続き実施していきます。 							
[特記事項] <ul style="list-style-type: none"> 平成24年度末に「大和市学校給食における食物アレルギー対応の手引き」を作成しました。平成25年度には大和市立病院小児科医師の協力により、全小・中学校を対象にアナフィラキシーとエピペンの研修を実施します。 							
成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
児童・生徒学校事故発生率	%	小) 4.8	3.4			4.0	4.0
		中) 10.2	10.0			9.4	9.4

基本目標1 夢や目標に向かってたくましく生きる子どもを育てます

[総合評価] B

[基本目標1に対する評価、及び目標達成に向けた施策の展開方針]

各施策の方向においての積極的な取り組みがすすめられ、概ね目標とした成果が得られています。子どもたちが様々な問題に対応していく力を育成し、全人格的な成長と生きる力をはぐくむ取り組みをさらに推進するためには、それぞれの施策で捉えられた課題に対しさらに踏み込んだ取り組みを検討していくことが必要となります。

基本目標2 創意に満ち、活力ある学校づくりを進めます

子どもの生きる力をはぐくむために、創意ある教育課程の編成と、地域の風が行き交う信頼される学校づくりに努めます。

教職員は、子どもたちの「自ら成長する力」をはぐくむために、自らの職責の重要性を認識し、自己研鑽に努めることで、教職員としての資質向上をめざします。

■実施計画掲載事業と平成24年度の実績

▼施策の方向2—1 創意ある教育課程の編成に向けて支援します

各学校における教育課程は、学習指導要領に従い、児童・生徒の発達段階や地域の特性を踏まえながら、教育目標、教育内容、指導組織、指導計画の総体として編成されます。児童・生徒の生きる力がはぐくまれるよう、各学校の創意ある教育課程の編成を支援します。

(1)学校訪問による指導

[担当] 指導室

[事業内容] 学校が創意工夫して教育課程の編成を行えるよう、教職員の指導力向上を図るため、指導主事等が学校を訪問し、指導方法をはじめ、教育全般にわたり指導・助言を行いました。
※計画訪問:学校教育全般にわたる諸問題を把握し、専門的事項について指導助言を行います。
※要請訪問:授業実践や校内研究、教育課程に関する指導助言を行います。

[計画と実績]

	H24	H25	H26
計画訪問の実施回数	計画:28回 実績:28回	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-
要請訪問の実施回数	計画:42回 実績:88回	計画:52回 実績:-	計画:64回 実績:-

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・学校独自で教育課程を工夫し、朝の時間を基礎基本の定着の時間に当てたり、読書活動の時間に当てたりして工夫しています。
- ・人間関係づくりや自治活動の充実を目指し、総合的な学習の時間や学校行事を利用し異学年交流活動を取り入れています。

▼施策の方向2-2 活力ある、開かれた学校運営が進められるよう支援します

児童・生徒の実態や地域の様子を踏まえ、保護者や地域住民と連携した特色ある学校運営をめざします。また、保護者や地域への積極的な情報の発信や学校評議員制度の活用など、学校・家庭・地域と関わりを深め、地域の中で信頼される学校づくりを進めます。

(1) 学校評議員の委嘱		[担当] 指導室		
[事業内容]	学校の運営に対し意見をいただくことを目的に、主に地域の方の中から校長の推薦があった方を学校評議員として委嘱しました。 学校評議員は、評議員会や学校訪問、学校行事への参加や授業内容の参観などを通じて学校に対する意見や助言をします。また、各種アンケート結果から学校の教育活動に対して助言するなどの活動をしています。各学校では、その助言を受け、次年度の教育活動の計画に生かしています。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	学校評議員の委嘱人数	計画:160人 実績:158人	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-

(2) 大学との連携		[担当] 指導室		
[事業内容]	大学と児童・生徒の教育活動を支援する「教育インターンシップ」に関する協定を締結し、学生ボランティア8名を各学校に派遣しました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	協定を結んだ大学数	計画:5校 実績:5校	計画:6校 実績:-	計画:7校 実績:-

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・地域の方が自由に授業を見ることができるコミコミスクールをはじめ、土曜授業参観や学校評議員の授業参観などを積極的に取り入れ、地域に開く学校の取り組みを行っています。
- ・学校評議員会を通年的に開催し、評議員から学校経営に対する意見や考えをうかがい、教育活動に反映しています。

▼施策の方向2-3 「安全と安心」に守られた学校の環境づくりを進めます

安全と安心に守られた学校生活をめざし、防犯体制の整備とともに、家庭・地域と協力して登下校時などの安全確保に努めます。また、大規模災害時に備え、学校の防災計画の見直しを推進します。

学校給食では、安全で、栄養バランスのよい給食を提供します。

(1)児童・生徒の安全対策		[担当] 指導室		
[事業内容]	不審者情報をはじめ、台風など自然災害に伴う児童・生徒の登下校に関する情報や運動会など学校行事の実施に関する情報を学校から保護者に対し発信できる学校PSメールについて、システムの保守を行いました。平成 24 年度はシステムを改修し、より迅速に情報が提供できる体制を整えました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	学校PSメールシステムの保守	計画:保守の実施 実績:保守の実施	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-

(2)共同調理場及び単独調理場大規模改修		[担当] 保健給食課		
[事業内容]	安全で良質な学校給食を提供するため、平成24年度は北部学校給食共同調理場の耐震補強工事実施設計のほか、受入校の給食用エレベーター改修工事や南部学校給食共同調理場の受変電設備改修工事を行いました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	北部学校給食共同調理場の耐震補強	計画:詳細設計 実績:実施設計	計画:工事 実績:-	
	エレベーター改修工事	計画:文ヶ岡小、上和田中、南林間中 実績:計画校の実実施設計	計画上和田小 実績:-	計画:つきみ野中 実績:-
	受変電設備改修工事	計画:南部調理場 実績:南部調理場	計画:中部調理場 実績:-	

(3) 共同調理場及び単独調理場運営**[担当] 保健給食課**

[事業内容] 安全で良質な学校給食を提供するため、学校給食衛生管理基準等に基づき給食調理業務を行いました。
給食調理業務等の運営、委託、備品購入、施設管理に伴う光熱水費管理等の運営管理を行いました。また、調理場等を対象に衛生検査を実施し、食中毒や異物混入の防止に努めました。なお、受入校(20校)は隔年で10校ずつ衛生検査を実施しています。

《対象校及び1日あたりの食数(H24年5月1日)》

【北部調理場 :4,157食】 緑野小・大野原小・中央林間小・大和中・つきみ野中

【中部調理場 :4,393食】 柳橋小・南林間小・大和東小・引地台小・光丘中・鶴間中・南林間中

【南部調理場 :4,328食】 上和田小・福田小・下福田小・文ヶ岡小・渋谷中・引地台中・

上和田中・下福田中

【単独調理校 :直営2,709食・委託3,277食】

(直営) 林間小・草柳小・深見小・渋谷小

(委託) 北大和小・大和小・桜丘小・西鶴間小

[計画と実績]

	H24	H25	H26
衛生検査実施施設数 (学校給食共同調理場)	計画:3施設 実績:3施設	計画:工事 実績:-	
同 (単独調理校)	計画:8施設 実績:8施設	計画上和田小 実績:-	計画:つきみ野中 実績:-
同 (受入校)	計画:10施設 実績:10施設	計画:中部調理場 実績:-	

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・学校 PS メールを有効活用し、不審者情報を保護者に発信し、児童・生徒を見守る目を増やして、児童・生徒の安全を図っています。
- ・地域のボランティア団体と連携を図り、下校時の見守り活動を実施しています。

▼施策の方向2-4 子どもが落ち着いて学べる学習環境を整備します

安全・安心な学校環境をめざし、老朽化した学校施設の改善を計画的に進めるとともに、児童・生徒が主体的に学べる教室環境づくりに努めます。また、学校規模の適正化に努めます。

[担当] 教育総務課

(1) 学校施設老朽化に伴う大規模改修

[事業内容] 良好な教育環境に維持していくため、老朽化した校舎を計画的に改修ができるよう、整備計画に基づき、工事及び実施設計を行いました。



建設中の仮設校舎（大和中学校）

[計画と実績]

	H24	H25	H26
桜丘小	/	計画: 実施設計 実績: -	計画: 工事(1/2) 実績: -
渋谷小		/	計画: 実施設計 実績: -
大和中	計画: 工事(1/2) 実績: 工事(1/2)		計画: 工事(2/2) 実績: -
つきみ野中	計画: 実施設計 実績: 実施設計	計画: 工事(1/2) 実績: -	計画: 工事(2/2) 実績: -

[担当] 教育総務課

(2) 学校防音設備整備

[事業内容] 航空機騒音を軽減し良好な室内環境の下での教育を実現するため、実施設計と工事を各 1 校で行いました。

[計画と実績]

	H24	H25	H26
桜丘小	/	計画: 実施設計 実績: -	計画: 工事(1/2) 実績: -
渋谷小・南林間中		/	計画: 実施設計 実績: -
大和中	計画: 工事(1/2) 実績: 工事(1/2)		計画: 工事(2/2) 実績: -
つきみ野中	計画: 実施設計 実績: 実施設計	計画: 工事(1/2) 実績: -	計画: 工事(2/2) 実績: -

(3) 学校トイレ改修**[担当]教育総務課**

[事業内容] 小学校4校、中学校1校のトイレを、明るく衛生的で、使いやすいトイレに改修しました。

[計画と実績]

	H24	H25	H26
改修工事 (小学校)	計画: 林間、大和、 草柳、南林間 実績: 計画通り実施	計画: 北大和、 深見、西鶴間、柳橋 実績: -	計画: 林間、柳橋、 南林間 実績: -
改修工事 (中学校)	計画: 引地台 実績: 計画通り実施	計画: 大和、南林間 実績: -	計画: 引地台、 つきみ野、上和田 実績: -

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・日常的に校舎内外の施設を確認し、必要に応じて教育委員会に修繕を依頼するなど、安心と安全に留意して維持管理に努めています。

▼施策の方向2-5 教職員の教育研究の推進と研修の充実を図ります

人格的資質・課題解決力・授業力など、教職員の資質・能力の向上や学校の教育力を高める研修の充実を図ります。また、校内研修としてOJTの活用を図るなど、“学びつづける教職員”をめざし、はたらきかけます。

(1)教職員研修		[担当] 指導室、教育研究所		
[事業内容]	教職経験に応じた研修や、校長・教頭などの職責に応じた研修に加え、専門性を高める研修(希望研修及び各校1名以上の選出研修)を行いました。 主に希望研修講座として人格的資質向上研修講座、課題解決力向上研修講座、授業力向上研修講座を11回行いました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	各種研修会の実施	計画:実施 実績:59回 (教育研究所15回 指導室44回)	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-

(2)教育研究支援		[担当]指導室		
[事業内容]	各学校に対し、「今日的な教育課題の解決に向けた研究」や「小中連携に関する研究」、「各学校の校内研究の質的向上」などに関する教育研究を委託しました。また、市内教職員の横断的な研究組織に対し、補助金等を交付しました。 ※小・中学校教育研究会は、各部会で年4～6回にわたり、各年度設定したテーマについて研究し、その成果を機関誌にまとめ報告します。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	研究委託	計画:教育課題研究推進委託3校、 その他25校 実績:教育課題研究推進委託3校、 その他25校	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-
	市小・中学校教育研究会等への助成	計画:39部会 実績:38部会	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-

(3)学校訪問による指導 (再掲)		[担当] 指導室		
[事業内容]	学校が創意工夫して教育課程の編成を行えるよう、教職員の指導力向上を図るため、指導主事等が学校を訪問し、指導方法をはじめ、教育全般にわたり指導・助言を行いました。 ※計画訪問:学校教育全般にわたる諸問題を把握し、専門的事項について指導助言を行います。 ※要請訪問:授業実践や校内研究、教育課程に関する指導助言を行います。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	計画訪問の実施回数	計画:28回 実績:28回	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-
	要請訪問の実施回数	計画:42回 実績:88回	計画:52回 実績:-	計画:64回 実績:-

(4)教科における体験的活動の推進		[担当] 指導室、教育研究所		
[事業内容]	新学習指導要領の趣旨に沿った体験的な学習、問題解決的な学習の充実に向けて、教職員対象の研修会や訪問指導を行いました。 ・算数「本当の問題解決力とは何か」 ・理科「外部機関と連携した理科教育 ～JAXA 宇宙教育センター・相模原市立博物館～」			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	体験的な学習を踏まえた授業力向上研修の開催回数	計画:1回 実績:2回	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-
	要請訪問時における指導・助言	計画:実施 実績:88回	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・主体的に学ぶ姿勢や思考・判断・表現の育成を目指し、校内でお互いに授業を見学したり、その後の校内研究により意見を交わしたりする機会を多く持ち、指導力の向上に努めています。
- ・経験の浅い教員が多いことから、「現職教育」を推進し、校内研修の充実を図っています。
- ・教職員の資質、指導力向上のため、研修会に参加するとともに、校内でその成果の共有に努めています。

▼施策の方向2-6 教員が子どもに向き合える環境づくりに努めます

地域の方々及びスクールアシスタントなどの非常勤職員によるサポート、校務用PCの一人1台の整備、校務・組織の見直しなどを進め、教職員が子どもと向き合う時間の確保に努めます。

(1)教育用コンピュータ整備		[担当] 教育研究所		
[事業内容]	小・中学校のコンピュータ教室等に設置する教育用コンピュータ及び校務用コンピュータを整備しました。 ・小学校校務用サーバ19台更新 ・小学校電子黒板用コンピュータ24台新規導入			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	機器等の更新	計画:小学校職員系校内LANサーバ機器等の更新 実績:実施	計画:小学校職員系校内LANコンピュータ機器の更新 実績:-	計画:コンピュータ教室機器の更新 実績:-

(2)教職員健康診断		[担当] 保健給食課		
[事業内容]	疾病の早期発見と予防、健康の保持を図るため、教職員の健康診断のほか、メンタルヘルス講座を実施しました。 教職員健康診断 7月24日、8月9日、8月23日 延3日間実施 受診者数:643人			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	教職員健康診断の実施	計画:3日 実績:3日	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-
	教職員対象メンタルヘルス講座の開催	計画:1回 実績:1回	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-

(3)非常勤講師派遣		[担当] 学校教育課		
[事業内容]	教職員が病気療養や研修等で短期間(2週間未満※)不在となり、授業に支障がでないよう学校長からの要請により、非常勤講師を任用し、小学校5校、中学校1校に派遣しました。 ※県費非常勤講師の派遣対象外			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	派遣日数	計画:11日程度 実績:30日	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・情報の管理、セキュリティの意識を高く持ち、文書作成や成績処理において校務の情報化を図っています
- ・校内の衛生推進者(教頭)が中心になり、労働安全衛生管理体制の推進に努めています。

施策の方向2—1 創意ある教育課程の編成に向けて支援します						[施策の達成度] B	
<p>[施策の成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画訪問における各学校の重点項目や教育課程の工夫の把握、要請訪問における委託研究や校内研究を具現化する授業の参観や校内研究会への参加により、当該校の取り組みや今後の方向性について指導・助言を行いました。この結果、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業展開や校内研究の質的向上が見られました。 ・国や県からの情報、先進的な取り組み事案などを各学校へ情報提供することで、学校の実情に合わせた取り組みができるように努めました。これにより、各学校での、言語活動の充実、思考力・判断力・表現力の育成、観点別評価など校内研究のテーマとした研究の実施につながっています。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会から学校へ示す学校評価の内容を検討することで、各学校が次年度に向けて有効な教育活動ができるように工夫して行く必要があります。 							
成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
創意ある教育課程を編成している学校数	校	28	28			28	28

施策の方向2—2 活力ある、開かれた学校運営が進められるよう支援します						[施策の達成度] B	
<p>[施策の成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果指標として設定している「学校評議員の来校日数」は5.8日となり計画策定時より増加しました。 ・各学校で行われている教育活動を地域・保護者に幅広く、機会を多く公開しているほか、地域の催し物へ参加しています。これを通じて、学校に対する地域からの理解や協力が得られています。 ・学校評議員の学校訪問や協議会を通して、教育活動への助言等を頂き、その意見を参考にして次年度の教育課程の編成に生かしています。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育力を生かした教育活動の展開が、今以上に実施されるよう人材ボランティアバンクの有効活用を働きかける必要があります。 							
成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
学校評議員の来校日数	日	5.4	5.8			6.5	8

施策の方向2—3 「安全と安心」に守られた学校の環境づくりを進めます						[施策の達成度]	A
<p>[施策の成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 成果指標として設定している「応急手当普及員数」は98人となり中間目標値の90人を超えました。 ・ PSメールなどを活用し不審者情報だけでなく、自然災害に伴う登下校の情報、さらに、学校行事や学校との連絡事項などの有効な情報が発信されています。 ・ 給食の食材は国内産を基本とし、遺伝組み換えがされていないものを使用し、食品添加物を極力避けるなどの取り組みにより、安全な給食を提供できています。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成24年度の学校PSメールの登録世帯数は12,019件で、全世帯数の81%となっています。緊急時の連絡手段として有効であることから、登録世帯数の割合を高めていくことが求められます。 							
成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
応急手当普及員数	人	63	98			90	112

施策の方向2—4 子どもが落ち着いて学べる学習環境を整備します						[施策の達成度]	B
<p>[施策の成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ トイレ改修では、臭いの元となる細菌の繁殖を抑えるために床面を湿式から乾式に変更したほか、便器を和式から洋式へと変更し、照明や内装を明るいものにするなど、児童・生徒が明るく快適な学校生活を送ることができるよう改修しました。 ・ 大規模改修、学校防音設備整備では、施設を延命化し、現状に合った使いやすい施設に全面改修するために、大和中学校において仮設校舎を建設し改修工事に着手しました。 ・ 日常的な修繕要望に対する「修繕必要施設の改善割合」は88.7%と着実に修繕を行っています。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 老朽化が進む各学校施設を把握し、適正な優先順位を判断し整備を進めることが必要です。 ・ 35人学級が小学校2年生まで実施されたことや開発事業の影響により、今後、教室数の不足が見込まれる学校があることから、学校施設の拡充や学校規模の適正化などの対応を検討する必要があります。 							
成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
修繕必要施設の改善割合	%	86.0	88.7			90.0	90.0

施策の方向2—5 教職員の教育研究の推進と研修の充実を図ります					[施策の達成度] B		
<p>[施策の成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> 委託研究として研究期間3年間の教育課題研究推進校3校、2年間のふれあい教育実践研究推進校3校、1年間の小・中連携実践研究推進校1校を定めています。これにより、該当校では、組織的、実践的な研究や地域の特性を生かした研究、小中連携をテーマにした研究などを行い、児童・生徒の学力向上や規範意識向上などに役立てています。 計画訪問における各学校の重点項目や教育課程の工夫を把握、要請訪問における委託研究や校内研究を具現化する授業の参観や校内研究会へ参加により、当該校の取り組みや今後の方向性について指導・助言を行いました。また、成果指標として設定している「校内研究に際し指導主事派遣要請をした件数」は特別支援教育充実のために支援級研究授業を要請訪問に位置づけたことのほか、初任者研修の増加、学習指導要領の改訂に伴う研究や委託研究校の発表校が多かったことなどにより88回に増加しました。 今日的な教育課題に取り組むための研修講座を開催し、日々の授業や教育活動に反映させることができています。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 年々増加する教育課題に対して、教育委員会の重点施策との兼ね合いを考えながら、研修会の精選をしていくことが必要です。また、夏休みの短縮に伴い、教職員を対象とした研修の開催日程の確保が難しくなっていることも課題となっています。 							
成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
校内研究に際し、学校が指導主事派遣要請をした件数	回	42	88			52	64

施策の方向2—6 教員が子どもに向き合える環境づくりに努めます					[施策の達成度] B		
<p>[施策の成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校校務用サーバの更新により、情報のセキュリティを高めるとともに校務の効率化を図っています。 7月から8月にかけて、3日間教職員健康診断を実施しました。成果指標として設定している「教職員の健康診断・人間ドック受診率」は合計96.2%と計画策定時より向上しました。また、メンタルヘルスに関する講習会などを通じてメンタルヘルス相談制度などの周知に努めています。 非常勤講師の派遣により、教員の欠員が生じた際にも支障なく授業が実施されました。また、教員の業務負担の解消にもつながっています。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康診断の受診率は向上していますが、中間目標値や最終目標値を達成するためには、健康診断受診の呼びかけを強化することや教職員の他の会議と日程が重複しないよう事前に調整することが必要です。また、教職員の健康管理を多面的にとらえ、メンタルヘルスに関する対策などを強化する必要があります。 教職員の配置に対する適正なパソコン台数を確保するため、計画的な整備が必要です。 急な派遣要請に対応できるような非常勤講師の確保に努める必要があります。特に中学校においては、教科によっては、派遣要請に対応できない場合もあります。 <p>[特記事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 非常勤講師の登録募集記事を平成24年度ビジュアル版「大和の教育」に掲載しています。 							
成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
教職員の健康診断・人間ドック受診率	%	95.9	96.2			98.0	100.0

基本目標2 創意に満ち、活力ある学校づくりを進めます

[総合評価] B

[基本目標2に対する評価、及び目標達成に向けた施策の展開方針]

各施策の方向で積極的な取り組みが進められ、概ね目標とした成果が得られています。創意に満ち活力ある学校づくりを進めるためには、今後も地域や家庭の協力を得て着実な取り組みを進める必要があります。また、教育環境の整備にも引き続き長期的な展望と多面的な視点をもって取り組むことが求められます。

基本目標3 家庭との連携を充実し、生きる力の基礎をはぐくみます

家庭は、子どもにとって、日々の暮らしの中で心とからだを健やかにはぐくむ重要な場であるとともに、安心できる場所です。

学校教育において、学校・家庭間の連携を一層進めることで、基本的な生活習慣や、人への信頼や人とかわる力の基礎をはぐくみに努めます。

■実施計画掲載事業と平成 24 年度の実績

▼施策の方向3—1 学校と保護者との連携を深めます

基本的な生活習慣・規範意識、読書の習慣などについて、家庭と連携を深める中で定着をめざします。

また、保護者の協力による授業や校外活動における安全確保、保護者同士の交流会設定など、学校と保護者の関係を深める支援に努めます。

(1)教育委員会広報誌発行		[担当] 教育研究所		
[事業内容]	学校教育について地域全体で理解をいただくとともに、教育委員会の施策や学校の特色ある教育活動について、市民に広く周知するため、教育委員会広報誌、ビジュアル版「大和の教育」および「まなびやまと」を発行しました。また、広報誌の発行を通して保護者と連携した学校教育推進のため、学習会への参加や活動への協力を働きかけました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	ビジュアル版「大和の教育」の発行 (75,500部)	計画:1回 実績:1回	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-
	「まなびやまと」の発行 (各75,500部)	計画:2回 実績:2回	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-


本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・PTA活動を中心に、読み聞かせボランティアや学校行事のアシスタントなど、保護者が教育活動に参画していただく場面を設けています。
- ・学校ホームページ、学校・学年・学級だより、給食だより等の媒体を活用するなど、学校内の情報の発信に努めています。

▼施策の方向3—2 保護者の子ども理解を深める取り組みを推進します

保護者を対象とした学習会や、親子で参加できるイベントなどを開催し、子ども理解につながる情報を提供するとともに、基本的な生活習慣の確立を支援する取り組みを進めます。また、相談体制の充実により、悩みや不安を抱える家庭を支えています。

(1) 青少年相談		[担当] 青少年相談室		
[事業内容]	<p>悩みを持つ青少年や保護者等から相談(電話相談 403 件、来室相談 213 件)を受け、その問題解決を支援しました。</p> <p>福祉機関や医療機関などにつながり環境調整を図ることができるスクールソーシャルワーカー(SSW)を平成 24 年 10 月から 2 名に増員し、複数の要因があるなど複雑化しているために環境調整が必要な家庭に派遣しました。(SSW の対応件数40件)</p> <p>保護者からの相談に対応するとともに、子ども理解を深めるため、特別相談員を定期的に学校に派遣しました。(年間派遣回数13回)</p>			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	SSW の稼働日数	計画:2 日/週 (1 名体制) 実績:2 日/週 (10 月から 4 日/週 ・2 名体制)	計画:4 日/週 実績:-	計画:同左 実績:-

(2) 親子料理教室		[担当] 保健給食課		
[事業内容]	<p>子どもたちに料理を自分で作る喜びを感じ、給食への理解を深めてもらうとともに、家庭における食に対する意識を高めながら親子の絆を深めることができるよう、親子料理教室を開催しました。</p> <p>・夏休み親子料理教室:開催 7 月 23 日、24 日 参加者数 92 名</p>			
				
	夏休み親子料理教室			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	親子料理教室の開催回数	計画:2 回 実績:2 回	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-

(3) 保護者対象講座**[担当] 青少年相談室、教育研究所**

[事業内容] 保護者に限らず、教職員や青少年関係団体関係者をはじめとする、多くの市民の方々の子ども理解を深めるため、抱える課題に応える講演会を開催しました。

- ・青少年相談講演会「アサーティブ・コミュニケーション」参加者数 56 名、
「思春期、青年期の精神疾患について」参加者数 59 名
- ・非行防止講演会「薬物乱用の恐ろしさとその実態等について」参加者数 99 名
- ・教育講演会「早寝・早起き・元気脳 ～脳と心と体のバランス～」参加者数 47 名
- ・教職員向け研修講座の中に保護者、市民を対象とした講座を2講座開催しました。
「いのちの大切さがわかる子に育てるために」参加者数 76 名
「正しい睡眠で子どもが変わる」参加者数 60 名

[計画と実績]

	H24	H25	H26
青少年相談講演会	計画:2回 実績:2回	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-
非行防止講演会	計画:1回 実績:1回	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-
不登校を考える保護者会	計画:3回 実績:4回	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-
教育研究所教育講演会	計画:1回 実績:1回	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・子育てに関し、懇談会の中で話し合いの場を設けたり、講演会を開催したりしています。
- ・学校教育相談員やスクールカウンセラーと連携し、保護者の相談に応じているほか、スクールソーシャルワーカーや臨床心理士などの専門職と連携し、保護者及び児童・生徒の悩みや不安を解消できるよう対応しています。

基本目標 3

教育委員会の自己点検評価

施策の方向3—1 学校と保護者との連携を深めます						[施策の達成度] B	
[施策の成果] ・広報紙の発行などを通じて、学校教育施策の方向性や子どもの学びの姿などの情報を保護者と共有をすることができ、各学校の教育活動についての理解を深めることにつながっています。こうした取り組みにより成果指標として設定している「学校から家庭への連絡や情報提供が十分されていると感じている小学校保護者の割合」は計画策定時から 11.6 ポイント上昇し、92.9%となりました。							
[今後の課題] ・保護者の必要とする情報を発信できるよう、発行物に掲載する内容をより精選することが必要です。 ・学校から家庭への情報の提供については概ね満足のいく状況であると数値に表れています。一方で保護者から学校側への積極的な情報提供や、学校独自の取り組みへの参加などが課題となっていることから、それら呼びかける情報発信を多様な方法で行うことが必要です。							
成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
学校から家庭への連絡や情報提供が十分されていると感じている小学校保護者の割合	%	81.3	92.9			85.0	90.0

施策の方向3—2 保護者の子ども理解を深める取り組みを推進します						[施策の達成度] A	
[施策の成果] ・医療機関や福祉機関などの関係機関との連携・調整を図り積極的に家庭に働きかけることが可能なスクールソーシャルワーカーを2名に増員したことにより、学校や家庭での要因だけでなく、医療的、経済的な複数要因があることで複雑化し悩みや不安を抱える家庭をより多く支援することができました。その結果成果指標として設定した「スクールソーシャルワーカーがかかわるケース数」は計画策定時の6件から40件に大きく増加し、そのうち36件について改善がみられました。 ・夏休みに児童・生徒とその保護者を対象に「夏休み親子料理教室」を2回開催し、食に対する理解を深め親子のふれあいの場を提供することができました。 ・保護者向けの講演会を開催し、教育に関する情報を発信することで保護者の子どもへの理解を深める機会を提供できました。							
[今後の課題] ・スクールソーシャルワーカーがかかわったケースでは一定の改善がみられましたが、主訴解消までに至ったもの少なく、継続して関わるものがほとんどとなっています。このような状況から、悩みや不安を抱える家庭の早期発見・早期対応を図るために、スクールソーシャルワーカーの増員をはじめとして、多様な相談に対応できる相談体制の充実を図ることが必要です。 ・食や親子のふれあいに関心がある方の参加が多いという傾向があることから、関心が薄い方にも参加してもらえるようPRなどを工夫していくことが必要です。							
成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
スクールソーシャルワーカーがかかわるケース数	件	6	40			20	25

基本目標 3 家庭との連携を充実し、生きる力の基礎をはぐくみます

[総合評価] B

[基本目標3に対する評価、及び目標達成に向けた施策の展開方針]

各施策の方向で積極的な取り組みが進められ、概ね目標とした成果が得られています。家庭との連携をより充実していくためには、保護者などが必要としている情報を的確に発信していくことが求められます。また、相談体制を引き続き充実させることで、こうした連携をさらに強化していくことが必要です。

基本目標4 地域の力を生かした活動を充実し、生きる力をはぐくみます

子どもは地域で育ちます。異年齢の子どもや経験豊かな人々とのふれあいにより、生きる知恵と社会性を身につけ、思いやりの心をはぐくみます。

学校・地域間の連携を一層進めることで、児童・生徒の活動の充実を図るとともに、地域全体で子どもをはぐくむ環境づくりを進めます。

■実施計画掲載事業と平成24年度の実績

▼施策の方向4—1 地域社会と協働した学校教育を推進します

読み聞かせボランティアをはじめとする学校支援ボランティアなど、地域人材を講師とした教育活動の展開を図ったり、まち探検や職場体験など地域の中で教育活動を展開したりすることで、地域の方々の協力のもと、特色ある学校運営を進めます。

(1)教育委員会広報誌発行(再掲)		[担当] 教育研究所		
[事業内容]	学校教育について地域全体で理解をいただくとともに、教育委員会の施策や学校の特色ある教育活動について、市民に広く周知するため、教育委員会広報誌、ビジュアル版「大和の教育」および「まなびやまと」を発行しました。また、広報誌の発行を通して保護者と連携した学校教育推進のため、学習会への参加や活動への協力を働きかけました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	ビジュアル版「大和の教育」の発行 (75,500部)	計画:1回 実績:1回	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-
	「まなびやまと」の発行 (各75,500部)	計画:2回 実績:2回	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-

(2)教育委員会表彰		[担当] 教育総務課		
[事業内容]	青少年の健全育成や学校教育、社会教育などの分野において、長年にわたり活動いただいた功労や、他の模範となった功績をたたえ、表彰しました。			
				
[計画と実績]		H24	H25	H26
	被表彰者数	計画:40人 実績:49人	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・地域の方が学校での教育活動に積極的に協力していただけるよう、教育活動や学校内の情報を地域に発信しています。

▼施策の方向4—2 地域全体で子どもをはぐくむ環境づくりを進めます

学校・家庭・地域が、子どもを取り巻く課題を共有できる取り組みを進めます。
また、学校・家庭・地域が、大和市家庭・地域教育活性化会議など社会教育関係諸団体などの地域ネットワークへ参画し、登下校時の見守りや青少年の健全育成のための社会環境浄化活動などを行うことで、地域全体で子どもをはぐくむ環境づくりを進めます。

(1)夏休み子どもまなびや		[担当] 指導室		
[事業内容]	夏休みに、学校や家庭とは違う環境で、地域の方と触れ合いながら、主体的に学ぶことの楽しさを実感できるよう、児童の夏休みの宿題や自由研究などへの取り組みを支援する夏休み子どもまなびやを開設し、680名の児童が参加し、地域ボランティアとして180名の方にご協力いただきました。			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	まなびやの開催 (コミュニティセンター)	計画:20 施設×2回 実績:20 施設×2回	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-

(2)青少年相談・街頭補導		[担当] 青少年相談室		
[事業内容]	悩む青少年や保護者等から相談を受け、その問題解決を支援しました。 ・電話相談 403 件、来室相談 213 件 また、非行防止、社会環境浄化のため、ゲームセンターや公園等を巡回し、問題行動がある青少年に対しては補導を行いました。 ・専門街頭指導員による補導実施件数:159 件 ・街頭補導従事者数:延べ 1,188 人			
[計画と実績]		H24	H25	H26
	街頭補導の実施回数	計画:10 回/週 実績:10 回/週	計画:同左 実績:-	計画:同左 実績:-

本施策にかかわる学校の取り組み事例

- ・ふれあい広場やコミセンまつりに参画することで、地域の方々と交流を深めています。
- ・児童・生徒が、地域で行われる清掃活動や美化活動などにボランティアとして積極的に参加するなど、地域の一員としての自覚を持つことにつながっています。
- ・家庭地域活性化会議やPTAと連携し、地域のパトロールに参加しています。

施策の方向4—1 地域社会と協働した学校教育を推進します						[施策の達成度] B	
<p>[施策の成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果指標として設定している「小学校で授業を実施したゲストティーチャーの1校あたりの人数」は24.6人となり計画策定時より増加しました。 ・専門的な知識や技術を持った方を招いて、ゲストティーチャーとして授業等を指導してもらい取り組みなどにより、学校教育に地域教育力が生かされています。また、中学校では、キャリア教育の一環として、地域の方を招いての職業講話を実施している学校もあります。どの方も、自分自身の体験や専門知識の中からの授業であり、非常に説得力があり児童・生徒にとって新鮮で効果的な授業となっています。 ・教育委員会表彰式を開催し、功労者を表彰することで教育活動への地域の理解を深めることにつながっています。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今以上に地域の教育力を生かした教育活動が展開されるよう、人材ボランティアバンクの有効活用を学校に働きかけていくことが必要です。 							
成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
小学校で授業を実施したゲストティーチャーの1校あたりの人数	人	24	24.6			27	30

施策の方向4—2 地域全体で子どもをはぐくむ環境づくりを進めます						[施策の達成度] B	
<p>[施策の成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みを利用し、小学生を対象に学習支援「夏休み子どもまなびや」を市内20か所で実施し、児童680人が参加しました。平成24年度は、指導者のボランティア180人の協力を得るなど、地域の協力が広がっています。 ・悩みを持つ青少年や保護者等から相談を受け、その問題解決を支援することができました。(電話相談403件、来室相談213件) ・ゲームセンターや公園等を巡回して問題行動がある青少年に対しては補導を行うなど街頭補導を実施したり、有害看板等の撤去活動(3回)や有害図書区分陳列等調査を行ったりすることで、非行等の防止や地域全体で子どもをはぐくむ社会環境浄化につながっています。 <p>[今後の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加児童の増加により、会場によっては定員オーバーとなる可能性もあり、その場合は学習場所の検討が必要となります。また、指導者のボランティアは、地域の方々の協力もあり年々増加していますが、安定してボランティアを確保することが課題となっています。 ・多様な相談に対応できる相談員等の確保や関係機関との一層の連携強化が課題となっています。また、地域全体で子どもをはぐくむ環境づくりには地域の大人が子どもに声をかけるなど、より多くの方に日常的な取り組みに協力していただくよう呼びかけていくことが必要です。 							
成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (H22)	実績値			中間目標値 (H26)	最終目標値 (H30)
			H24	H25	H26		
ボランティア活動や地域の活動に参加したことがある生徒の割合	%	62.0	64.9			65.0	70.0

基本目標 4 地域の力を生かした活動を充実し、生きる力をはぐくみます

【総合評価】

B

【基本目標4に対する評価、及び目標達成に向けた施策の展開方針】

各施策の方向でボランティアなどの協力が定着しつつあり、一定の成果が得られていますが、これらの取り組みには地域によって差があり、より多くの地域の方に協力していただき、全体の底上げを図る必要があります。

地域の力を生かした活動を充実させるためには、地域ボランティアや自治会などとの協力関係がより深いものとなるよう、協力を呼びかける仕組みなどを工夫していく必要があります。